

保護者のみなさまへ

小野市立市場小学校長 石田由美

**令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について**

5月27日(木)に6年生を対象に、国語・算数の学力調査及び学習状況調査が実施されました。ここに本校の概要についてお知らせいたします。今後とも保護者の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

**1 国語【知識・技能】【思考・判断・表現】**

## ◎ 優れている問題

①漢字(ころがって・げんいん・つみ重ね)②文法(「残されています」の主語)③スピーチの構成説明④目的や意図に応じた内容選択⑤資料を用いた理由の説明⑥目的に応じて文章を書き直す

## ● 課題が残る問題

①「すぐに」(連用修飾語)が詳しくしている言葉②目的に応じ、文章と資料を結びつけて必要な情報を見つけ、キーワードを用いて要約する

## ※ 考察

○児童の基礎学力の保障、家庭学習の充実、チャレンジ精神の育成等をねらいとした「おの検定」の取組の成果が、漢字を書く力につながっている。  
 ○全体的におおむね良好で、語彙を豊かにする「辞書引き学習」や「話型」を用いて理由とともに自分の言葉で述べることを大切にするなど、つけたい力を明確にした授業改善の成果が出ており、文脈に沿って内容をとらえる力に繋がっている。  
 ○一方、目的に応じ、文章と資料を結びつけて、必要な情報を見つける力・目的を意識して要約する力に課題があり、文章形式ではないデータから読み取ったことを補って、条件をふまえて簡潔にまとめる力をつけていくことが必要である。  
 ○市が実施する到達度テストの結果をふまえ、本校の強みと弱みを分析し、PDCAサイクルのもと、普段の国語授業を中心に実施してきた取組が成果として表れている。

**2 算数【知識・技能】【思考・判断・表現】**

## ◎ 優れている問題

①2つのコースの道のりを求め、その差を求める②直角三角形の面積の求め方の式と答え③本の貸出冊数の学年別棒グラフからわかることを選ぶ④学年を比べて、割合の違いが一番大きい項目をグラフから読み取る⑤23個のボールを6個ずつ入れる時に必要な箱の数⑥8人に4リットルのジュースを等しく分ける式と答え⑦30mを1としたとき、12mが0.4にあたる理由を言葉や数を使って書く。

## ● 課題が残る問題

①二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める。

## ※ 考察

○基本的な計算問題の正答率が高く普段の授業だけでなく、「おの検定」や家庭学習の成果が出ている。  
 ○全体的に「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」ともに、おおむね良好である。国語や社会科でデータに着目した授業を展開し、ねらいを明確にして児童の「気づき」を全教職員で意識した結果として良い方向につながっている。算数授業を中心に本校が取り組んでいる「ふきだし法」等の学習により、具体的な場面できまりを見付け、算数の内容や考えを活用し、筋道を立てて発展的に考察する力が定着している。  
 ○実際の場面を思い浮かべ、自分の考え方を自分の言葉で理解する力が育っている。既習事項を活用して考え方を述べる力に繋がるよう、算数科だけでなくすべての教科で説明力をつける指導を続けていきたい。

### 3 生活・学習状況について

◎優れている生活・学習状況(※パーセント結果は・している・どちらかといえばしている)

質 問 内 容	本 校
毎日朝食を食べている	97%
毎日、同じくらいの時刻に起きている	95%
自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている。	90%
人が困っているときは、進んで助けている。	92%
友だちと協力するのは楽しい	92%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	99%
人の役に立つ人間になりたいと思う	97%
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う	100%
5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた	90%
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	95%
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている	97%
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	92%
国語の勉強は大切だと思う	99%
国語の授業内容はよく分かる	91%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	97%
算数の勉強は大切だと思う	99%
算数の授業内容はよく分かる	95%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	97%
算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている	97%

● 課題が残る生活・学習状況(※パーセント結果は・している・どちらかといえばしている)

質 問 内 容	本 校
学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日1時間以上読書をする	20%
新聞を読んでいる(週に1～3回)	11%

#### 《考察》

- 小野市教育行政顧問の東北大学川島教授の脳科学理論に基づく助言もあり、「早寝・早起き」「朝食を毎日食べる」等の習慣化が家庭の協力のもと図られている。
- 小中一貫教育家庭学習プロジェクトで作成した家庭学習の手引きが、6年目を迎える。保護者の方々の理解と協力のもと、マイスタ(発達段階に基づく自主学習ノート)が確実に学力面で機能している。※発達段階に基づく自主学習が定着している。
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、新しい生活様式に基づいた学校生活により、個人として集団としてできることを行っていく中で、改めて思いやりを持って人に接することの大切さを共有し、前向きに生活していく力が育まれている。ただし、活動形態に制限があり、話し合い活動が十分にできないことから、友だちとの関わりの深まりや表現の工夫などを学び合う体験が少なくなっている。
- OGIGAスクール構想の推進に伴い、ICT機器を活用した学習が定着し発展している。
- 読書については、児童の約7割が授業外では1日30分未満の読書量であり、時間の使い方などの指導とともに、家庭と連携した読書活動が求められる。
- 新聞については、新聞を活用した学習を授業等に取り入れていくことも検討する。

### 4 今後の学校や家庭での取組について

この結果から、温かな家庭(保護者)・地域・学校(教職員)に支えられ、子どもたちが成長している姿を確認するとともに課題も見えてきました。子どもたちの健全育成・成長を支えるため、今後とも家庭(保護者)・地域・学校のトライアングルでのご協力をお願いいたします。